78-3

文學士田淵爻春著

韓國新地理

東京博文館藏版

明治 38 9 11 交内

序

韓國が日本の附屬國たり保護國たるに於て世界は既に悉く之を公認し是認したり。換言すれば今や韓國は日本の一種の版圖たる新關係に入り來れるものなり。私見を以てすれば戰後の學術界及び教育界は樺太島と共に韓國及び滿洲の一部の如きも從來之を外邦視して研究し教授したるを更改し之を本邦範域の一部視すべきの必要あらん。然れ共此書を編みたる余の意志は以て之を教授用に供せんとするものにあらず。韓國を現在的に諒解せんと欲する者に向つて普汎なる智識を與へ及び地理學研究者の參考たらしむるを得ば足れるのみ。

由來韓國には科學的の教育未だ普及せず、隨て韓國の地文及び人文をも科學的に研究されたるものは欲んど之れ有ること無し。唯韓國山脈の布置及び系統に就きては先年小藤博士の實地調査の結果を公にせられたるものあり、本書も亦專ら此報告に依據するの便益を得たるは感謝する所なり。余は戰後に於ける學術界の發展として向後篤學の士の續々我が新來の邦土を實査せられ、學術的觀察の發表に接せんことを希望する者なり。以て卷頭の辭となす。

日露の講和成立の外電に接したる日

著　者

韓國新地理目次

第一編　地文地理

第一章　名稱……一頁
第二章　位置……二
第三章　境界……二
第四章　廣袤……三
第五章　海岸線……四
東海岸—南海岸—西海岸
海峽—港灣—半島—岬崎—島嶼
第六章　地勢……一〇
第七章　山誌……一三
第一期山脈—第二期山脈—第三期山脈

長箭津

長箭津（チャンジン）

地は通川郡に屬し本道沿岸唯一の良港灣にして本邦漁民之を軍艦港と稱す。灣口東に面し西に折れて灣入深く背面には金剛山屹立し其脉岐れて灣の南北、西三面を圍繞するが故に三方の風を避くるに宜し。本港灣は本邦漁民の根據地たるのみならず各國捕鯨船の重要なる碇泊場にして殊に先年露國捕鯨會社の如きは公然沿岸の一部を租借し裁解地として使用したり。本邦潜水業者の納屋を構ふるもの亦多し。

鬱陵島

鬱陵島（ウリュウトウ）

本島は北緯百三十度四十五分乃至五十三分、東經三十七度三十四分乃至三十一分の間に位し平海郡越松浦の南四十余里の海中に在る孤島にして面積五百四方里許、中央は高山屹立し高さ四千呎。沿岸港灣に乏しく船舶の碇繫頗る困難なり。全島平地稀なりと雖其地質は古來落葉枯草の堆積腐化したる黑土の一種より成り土地膏腴にして肥料を施さゞるも農耕を爲すを得、大豆は本島の主産物にして年々の産額四五百石に及び本邦に輸出するもの多し。林産には

欅、桐、松、白檀等あり。就中欅は徑六尺の巨材を産し桐は本邦にて松島桐と稱して珍とするものなり。往時は此種の樹木全島に繁生して殆んど無盡の觀ありしも近年本邦人の濫伐によりて漸く減少せり。其他山葡萄の産出あり又沿海に産出する石花菜は種類良好にして産額亦大なり。秋季山鷄の類非常に多く島民は之れを樸殺し肉は乾燥貯藏して年中の副食物とし脂肪は溶解して燈油に供す。本島天産物の饒多なるは韓國中多く其比類を見ず。

本島の住民は往時極めて稀少なりしも近年韓人及び本邦人の移住する者漸く多く韓人の戸數約四五百戸に及び本邦人亦一時三百以上に達したりしも先年本邦政府より退去の命ありたる爲め稍々減少したり。其本邦居留者は概ね鳥取縣人の直接渡航したるものにして木材大豆及び石花菜の輸出を營み或は雜貨日用品を販賣し純然たる日本村を形成せり。島中一泉の湧出するあり少しく酸味を帶び島民之れを藥白水と稱し疾病の際服用して藥餌に代ゆるに其効驗見るべきものあり。或は本邦の平野水、金山水等と同種なる炭酸水にはあらずやといふ。

本島は昔時新羅が我出雲地方と交通したる時隱岐島と共に寄港地たりし所にして中古倭寇の一時根據地となしたることあり。貝原益軒の如き本邦の屬地なりと斷じたる程なれ共明治十五六年の交本邦人の伐木に從事するものありしを韓廷の抗議により我邦之れを韓廷に讓り所屬初めて判明するに至れり。然れ共邦人の依然居住して伐木を營むもの多かりしが明治三十一年一時露人が本島の伐木植林の權利を得たることあり韓廷に照會して日本人の盜伐及び居住を禁ぜんことを迫り我公使は外部の照會を受け一時本邦人の立退を命ずることゝなりしも其後急に同島を退去せしむるは事情の許さゞるものあるを以つて其事由を韓廷に復喋したり。

本島より東南方約三十里我が隱岐島との殆んど中央に當り無人の一島あり。俗に之れをヤンコ島と稱す。長さ始んど十町余沿岸の屈曲極めて多く漁船を泊するに宜しと雖薪材及び飲料水を得るに困難にして地上を穿つも數尺の間容易に水を得ず此附近には海馬多く棲息し又海產に饒なりといふ。

韓國新地理並製輿付

明治三十八年九月六日印刷
明治三十八年九月九日發行

（定價四拾錢）

著作者　田淵友彦

發行者　東京市日本橋區本町三丁目八番地　大橋新太郎

印刷者　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

著作權所有

韓國全圖

京城市街圖
例引
圖請
鴨綠江
日本海
黃海
東朝鮮灣
西朝鮮灣
全羅南道
慶尚南道
慶尚北道
忠清南道
忠清北道
京畿道
黃海道
平安南道
平安北道
咸鏡南道
咸鏡北道
江原道
滿洲
奉天省
間島
鬱陵島
濟州島
巨文島
馬關海峡
朝鮮海峡
玄界灘
壹岐島
對馬
九州
本州